

ぎざぎざ綾め模様をみせるアフリカの布の特徴は、細かく縦横に切り、組み合わせることによって、無限大に違ったリズムを表現できるというユニークな一面を持っています。糊の着いた接着芯に、細かくきった布を、寄せて、詰めて、離しながら、少しずつ平面をおおっていくことで新しい一つの形を生み出します。それから、自由に刺繍を入れ込んでいき、アップリケという作業を行うことによって初めて作品が完成されます。穏やかで躍動的に行き来するミシンの糸は布地を活気づけ、その糸の色と光が布の上を覆っていきます。限りない糸の道は、平面を交差し、縦横に巡り、しっかり守られた秘密の周辺を移動しながら、やがて、景色の中へと溶けていきます。糸は命を吹き込み、記憶の流れる大河の水のように広がっていきます。

出来上がったルリックはクラフト的な手作りの温かさと精妙さが交わっています。どこか懐かしく、ほっとする、それでいて好奇心をかき立てられるような不思議な箱。貴重な作品を納める玉手箱の様であったり、何通もの祖先の恋文を納めた箱、屋根裏部屋で子供達が見つけた秘密の宝物だったり。これらの小箱の中には、優しく包まれたままの秘密、心地よく触れる布の暖かみが潜んでいます。

コリーヌとエロディは、表現力と夢の力、楽しさと喜び、分かち合える心、どこかで出会ったような感動を与えてくれる心温まる作品を作っていきたいと思っています。

マリーフランス ヴィルコック  
Marie-France Vilcoq

